

日本生体医工学会 2020 年度第 2 回理事会議事録

日時：令和 2 年 10 月 23 日(金) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局内 会議室 (CE コーポレーション)

<出席者>

理 事 長： 守本 祐司

副理事長： 木村 裕一

理 事： 横澤 宏一、山家 智之

<Web 出席者>

副理事長： 成瀬 恵治

理 事： 川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、井村 誠孝、中島 一樹、松村 泰志、
佐久間 一郎 (兼 関東支部長)、原口 亮、福岡 豊、村垣 善浩、黒田 知宏、
塩澤 成弘、杉町 勝、椎名 毅 (兼 2021 年大会長)

監 事： 吉田 正樹、中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹 事： 坪子 侑佑、木村 雄亮

事務局長： 磯山 隆

オブザーバー： 清水 久恵 (北海道支部長)、大城 理 (関西支部長)、
石原 謙 (中国・四国支部長)

<欠席者>

理 事： 坂田 泰史、中島 章夫

監 事： 澤 芳樹

オブザーバー： 芳賀 洋一 (東北支部長)、杉原 伸宏 (甲信越支部長)、
長谷川 純一 (東海支部長)、嶋津 秀昭 (北陸支部長)、家入 里志 (九州支部長)

<理事会議題>

0. 理事会成立の件 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 日本生体医工学会における事業活動の利益相反 (COI) に関する指針案【審議 B】

杉町理事

日本生体医工学会における事業活動の利益相反 (COI) に関する指針・細則案について、前回報

告から細則の変更はないが、指針の文章の推敲を行った旨が報告された。本指針・細則案について全会一致で承認した。また本指針・細則を会員に広く届くように対応するよう要望があった。

2. COVID-19 による財務状況悪化への対応のための基金の取扱いについて【審議 C】

木村副理事長

COVID-19 に対する財務対応について報告された。内閣府に対する照会の結果、公益目的の基金であっても内閣府の事前承認は不要であり、理事会承認で基金取り崩しが可能であることが判明した。理事会で審議を尽くした上で、その旨を議事録として残し、基金を取り扱う必要がある。

ME 試験について、教育・試験事業積立基金 6000 万円の取り崩しによる赤字額約 3800 万円の補填が提案された。2021 年度の ME 試験の実施形態変更等に伴う支出増が想定される場合、ME 試験事業の運営や受験料の増額等も含め理事会で議論しつつ、取り崩しの増額検討も提案された。

その他事業について、事業安定化基金の取り崩しを検討する。ただし、2021 年の京都大会や生体医工学シンポジウム開催にかかる経費が不明であるため、実施方法等を検討の後、取り崩し額を定めるべきである旨が提案された。これに対して、京都大会は現地開催を予定しており、1 月頃まで情勢を伺いオンライン開催への変更を検討する旨が報告された。シンポジウムについても現地開催を検討しており 6 月初旬には、実地開催の可否を決定する旨が報告された。

本件について、ME 試験の基金を確実に試験の為に用いた事の証明が必要か、また例えば手持ち現金で立て替え、後に基金での補填が可能か質問された。これに対し、基金使用には理事会承認及び議事録作成の下で使用すれば問題ないと考えられ、公認会計士に確認する旨が回答された。

以上より、2021 年度大会、シンポジウム開催経費については財務委員会内で検討会を実施あるいは WG を立ち上げ方針を固め、次回理事会で事業化安定基金の取り崩し案を提案する事が決定し、検討会内に ME 試験委員会や大会委員会メンバーにも参加して頂く事とした。ME 試験運用については、試験委員会の議事録を理事会内で供覧、情報共有し、メール審議により承認する事とした。また次回理事会までの期間に手持ち資金の枯渇が発生した場合に備え、事業安定化基金について、緊急であれば理事長判断で取り崩しを可能とする旨が全会一致で承認された。

3. 会費未納の会員の代議員選挙に係る権限の制限のための関連規定の改訂【審議 D】

木村副理事長

会費未納に対応するための代議員選出規定の改訂に関する審議が行われた。2019 年度選出された 156 名のうち 2020 年 9 月 1 日時点で、1 年以上の年会費未納が 11 件、3 年以上の年会費未納が 8 件あった。会費未納者が代議員の選挙権および被選挙権を有する事は定款および関連法規の主旨に沿わない事から、会費未納者には代議員選挙権および被選挙権を与えないよう代議員選出規定を改定するため、現在 9 条まである規定に、以下を第 10 条として追加する旨が提案された。

“第 10 条 会員資格を喪失している者は、代議員選挙に係る、選挙権および被選挙権を与えない。”

なお、本年度については 2021 年 6 月の京都大会で代替わりとなるため、上記改定によらず従来通り実施する。選出された代議員候補のうち会費未納者に対して会費納入を催促し、期限までの納入がない場合、当該者を代議員候補から外して次点者を繰り上げ当選とする旨も提案された。

また、既に入会・会員種別規程上に、会費は該当年度の前年度に前納する事、滞納が該当年度終了後 6 か月に及ぶ場合は退会勧告を行い、1 年に及ぶ場合は理事会議決により除名を行う場合があるという記載がある。本規定は公益社団法人化前の規定であり、理事会で改定、廃止可能である旨が報告された。

以上より、本年度は、上記提案の通り施行し、次年度より第 10 条の追加、および入会・会員種別規程の改定・廃止を含め見直していくことを全会一致で承認した。

4. 入退会状況の件【審議 A】 村垣理事

日本生体医工学会の入退会状況についての報告があった。入会（正会員 7 名）、退会（正会員 5 名、準会員 6 名）について、全会一致で承認された。

5. 2019 年度第 5 回理事会（2020 年 4 月 24 日）議事録の確定【審議 E】 山家理事

2019 年度第 5 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。

6. 2020 年度第 1 回理事会（2020 年 8 月 28 日）議事録の確定【審議 F】 山家理事

2020 年度第 1 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。

7. 学会支援機構との契約書締結について【審議 G】 山家理事

学会支援機構との契約書締結案について報告された。覚書について、学会誌発送数を 4 部に変更し、それに伴う金額修正を行い、確定する事で承認された。

8. 2020 年度各委員会・WGの委員の承認【審議 H】 山家理事

2020 年度各委員会・WGの委員構成について報告され、全会一致で承認された。若手研究者活動 WG の委員について、リスト作成が要求された。編集委員会について、IF の取得に向けた委員構成の再考中であり、決定までは従来委員で活動する旨が報告された。臨床工学技士会連携 WG について、参入頂く先生方の承諾を得ており、まもなくリスト送付可能である旨が報告された。国際委員会について、植野 彰規先生（東京電機大学）を追加したい旨が報告された。選挙管理委員会については幹事の記入漏れがあるためリストを再送する旨が報告された。次回 2021 年 1 月の理事会においてすべての委員構成が決定する予定である。

9. 選奨申請（北海道支部大会研究奨励賞）【審議 I】 清水北海道支部長

日本生体医工学会北海道支部大会（2020 年 10 月 24 日）における北海道支部大会研究奨励賞について、全会一致で承認された。

10. 選奨申請（関東支部若手研究者発表会 優秀発表賞）【審議 J】 佐久間理事

日本生体医工学会関東支部若手研究者発表会（2020 年 12 月 12 日）における優秀発表賞について、本年度はオンライン発表のため賞金や記念品の授与はなく賞状のみとして実施したい旨が報告され、全会一致で承認された。

11. 選奨申請（2021 年度 YIA）【審議 K】 原口理事

第 60 回日本生体医工学会 Young Investigator's Award (YIA) セッションにおける最優秀賞および優秀賞について、全会一致で承認された。若手 WG のメンバーには理事会に参加して頂き若手の意見を積極的に出して頂くための仕組みを考えていきたい旨が報告された。

12. 生体医工学テキスト、Web 用語集の進捗状況【審議・報告 L】 平田理事

生体医工学テキスト「医療に活かす生体医工学」の出版決定が報告された。

生体医工学 web 用語辞典のインセンティブについて、doi 取得の為、以下の内容が提案された。

- ・ Web 上での加筆修正が完了した段階（本年度末を予定）で、web 用語辞典を PDF 化して doi を付与し、学会誌「生体医工学」の増刊号として J-STAGE にアップロード
- ・ 生体医工学の増刊号として公開、<https://doi.org/10.11239/jsmbe.〇.〇>といった doi が付与
- ・ 費用は数千～3 万円程度

本提案について、全会一致で承認された。CC ライセンスの取得および種類について、理事会でライセンス取得を認め、実際の可否および種類は編集委員会、編集担当理事の決定に一任する事で決定した。用語辞典の長さ規定について、用語により記載量が異なるため、編集者と執筆者間で決定する事とした。また、1 用語を M 系、E 系の 2 名が執筆する場合、1 名が主執筆でもう 1 名がサブとする事、各々の対応は編集者と決定する事とした。

13. G Suite 利用案内【報告 M】 井村理事

Google 投稿型ワークスペースである「G suite」が運用開始され、既にいくつかの研究会において利用されており、必要に応じて各委員会や研究会、支部に活用頂きたい旨が報告された。

メーリングリストのメールアドレス管理については 3 か月に 1 度、学会事務局から更新内容を G suite 管理担当者（今期中に広報委員会内で決定）に連絡して更新する形を予定している。また本メーリングリストは事務局や担当者等、限定されたメンバーのみ発信可能とする予定である。

現在はメール文案の作成～発信作業までを学会事務局に委託しているが、G suite 担当者を設ける場合、どの作業まで移行可能か、また従来比でどの程度金銭的に安くなるのか、質問があった。これに対し、事務局側で確認の上改めて報告される事が決定した。また、費用削減効果が小さい場合、メーリングリストの用途は会員間の情報交換や、会員向けの重要度の低い情報発信のみとするという提案があった。また、G suite に個人情報を利用する事に問題がないか質問があった。これに対して、メーリングリスト内の個人情報は公開されないため問題はないと回答された。

14. 生体医工学シンポジウム 2020 報告【報告 N】 大城関西支部長

2020 年 9 月 18 日、19 日にオンライン開催された、生体医工学シンポジウム 2020 の報告が行われた。ベストリサーチアワード、ベストレビューワーアワードおよび、ベストポスターアワードについて、その審査方法、評価基準および受賞者について報告された。

収支についてはオンライン開催変更の追加出費（web 開催費、web メンテナンス費）が生じたため、約 60 万円の赤字となった旨が報告された。来年度からの対策として、シンポジウム論文に限定して ABE を有料にする旨が提案された。また web 開催では特にポスター管理が困難なため業者委託が必要になり、経費削減が困難である旨が報告された。

また、シンポジウムの論文投稿数が減少している旨も報告された。対策として、シンポジウム申込期間と論文投稿期間の間に猶予を持たせるという提案があった。これに対し、博士学位申請用の論文投稿を考慮するとこれ以上猶予を設けることは困難だが、シンポジウム申込の時期を早める事は可能である旨が回答された。また ABE 誌が IF 未取得のため大学によっては学位申請要件を満たさず需要が減っている可能性がある一方、今後の臨床工学技士の参入増加の可能性や徳島開催時の若手の盛り上がりを見ると存続の価値が大いにある等の意見も出された。

これらの内容について、引き続き議論を重ねていく事とした。次回理事会で 2021 年度シンポジウムの概要および予算案について審議を行う予定である。

15. 京都大会での外部講師招聘助成について/専門別研究会活動に関する諸報告

【報告 O】 原口理事

2020 年度第 1 回理事会にて承認された、京都大会での専門別研究会の企画シンポジウムにおける講師招聘費用助成について 1 件の助成対象が決定した旨報告された。対象は以下の通りである。

研究会名：次世代医用デバイス研究会（生田 幸士 会長）

医療用トランスデューサデザイン研究会（山田 憲司 会長）

シンポジウム名：災害時病院被災による電源喪失に対する対応

講師氏名：工藤 昭子 先生（札幌南徳洲会病院 看護部長）

講演テーマ：北海道胆振東部地震での広域停電の経験

助成申請額：7 万円（謝金 1 万、旅費 5 万、宿泊費 1 万）

今回、リードタイムを長くしても応募は 1 件のみであった。理由として 2 研究会の合同開催と

いう条件がネックになっていると考えられる。今後の応募条件についてはフレキシブルに検討し、また各研究会長にも意見を求める事で決定した。

次に、2 件の新設専門別研究会の紹介記事が「生体医工学」に掲載予定である旨が報告された。また専門別研究会内において、「G suite」の活用が進められている旨も報告された。コロナ禍でオンライン研究会開催ツールとしてのニーズが高まる事を想定し、試行ユーザを 3 研究会に拡大した旨も報告された。本件について、オンラインのみの研究会として活動費用を要求しない場合も研究会を新設し、G suite を使用可能か質問があった。これに対して、専門別研究会の新設会議で検討、承認されれば可能である旨が回答された。

16. 2020 年度 ME 技術教育委員会 活動報告【報告 P】 中島理事

2020 年度の ME 技術実力検定試験について報告された。第 2 種試験について本年度は模試を作成した。希望施設への配信を行い、36 施設、計 1360 名から回答があり、各受験施設の平均点数等の情報を返送した。第 1 種試験については試験問題のうち 3 問を希望者に公開した(2020 年 10 月 15 日において 21 件の解答入力)。共に潜在的受験者に対して一定のサービス提供を行った。

17. 2020 年度 CE 委員会 活動報告【報告 Q】 中島理事

「2020 年度実践 ME 技術講習会」、および「2020 年度認定」が実施された旨について報告された。講習会については、例年と異なり e ラーニング形式での実施予定である旨も報告された。

18. 後援・協賛状況【報告 R】 山家理事

他団体との後援・協賛について報告された。

19. その他

代議員選挙の投票率低下を回避するため、積極的にアナウンスを行ってほしい旨が報告された。

以上